

講座名	どうげんぜんじのしょうでんのぶつぼうとしかんたざ				
	道元禅師の正伝の仏法と只管打坐				
主担当 講師	いわなが しょうせい		駒澤大学 仏教学部 教授		
	岩永 正晴				
概要	戦後昭和から平成の初めまで道元禅師研究を先導した鏡島元隆博士（1912-2001）は、道元禅師（1200-1253）の宗風の特質は「正伝の仏法を提唱したことであり、只管打坐の坐禅を拳揚したことである」としばしば指摘なされた。今季の講座名はこの指摘を踏まえるものである。本講座では道元禅師門下の展開を概観した後、道元禅師による大乘經典受容の様相を解き明かし、正師たる如浄禅師（1162-1227）と道元禅師との関係を明示し、さらに正伝の仏法を演説する道元禅師の諸撰述を解説する。そして以上を踏まえ只管打坐の本義を開示する。				
回数	5 回	受講料	5,000 円	配信 期間	11月
講座 レベル	初級	定員	200 名	講座 形式	オンデマンド形式
第1回	タイトル	永平門下展開の概要			
	担当講師	岩永 正晴 （ 駒澤大学 仏教学部 教授 ）			
	内容	第1回は本講座の導入部である。まず本講座の趣旨を述べ、そして道元禅師の「正伝の仏法」を承けた門下の展開を概観する。			
	配信期間	11月 1日 （ 月 ） ～ 11月 14日 （ 日 ）			
第2回	タイトル	経典と道元禅師			
	担当講師	新井 一光 （ 曹洞宗総合研究センター ）			
	内容	道元禅師の著作における引用経典を概観し、その引用経典に関する道元禅師の解釈を考察する。経典解釈に関して、今回特に『正法眼蔵』『三界唯心』巻を中心として取り上げたい。道元禅師は、この巻に『華嚴経』『法華経』『仁王般若波羅蜜経』の経文を引用し自由に解釈し自己の仏教理解を示している。さらに『正法眼蔵』の他の巻における経文解釈も取り上げ、経文の原意との相違、及び道元禅師の解釈の意義について詳しく説明したい。			
	配信期間	11月 8日 （ 月 ） ～ 11月 21日 （ 日 ）			
第3回	タイトル	如浄禅師と道元禅師			
	担当講師	永井 賢隆 （ 曹洞宗総合研究センター ）			
	内容	本講座第3回を担当するにあたり、道元禅師の思想がどのような背景（思想・歴史・文化）のもとに形成されたのかを中心に研究している立場から、道元禅師の仏法が形成される過程において特に重要な位置をしめる正師・天童如浄禅師との関係について、『宝慶記』や『如浄語録』を中心に講座を展開したい。			
	配信期間	11月 15日 （ 月 ） ～ 11月 28日 （ 日 ）			
第4回	タイトル	道元禅師の御撰述			
	担当講師	秋津 秀彰 （ 曹洞宗総合研究センター ）			
	内容	道元禅師は、自身の学び得た「正伝の仏法」を伝え、広め、残すために、様々な御撰述書を著わされた。現在の我々が、道元禅師の思想を知り、理解し、生かしていくためには、その御撰述書に触れ、読解していくことが基本となる。本講座では、道元禅師の御撰述書全体を様々な観点から分類しつつ、改めて概観してみたい。それに際しては、思想の検討の前提となる、書誌・歴史的観点からの説明に重点を置くこととする。それによって、各々の興味関心に応じて、どのような御撰述書から読解していけばよいのかということ適切に判断したり、それぞれの御撰述書を相互に関連付けながら読解することができるようになっていくことを目指したい。			
	配信期間	11月 22日 （ 月 ） ～ 12月 5日 （ 日 ）			
第5回	タイトル	正伝の仏法と只管打坐			
	担当講師	角田 泰隆 （ 駒澤大学 仏教学部 教授 ）			
	内容	道元禅師が三十二歳の時、立教開宗の抱負に立って、正伝の仏法の正門である坐禅修行について問答形式で示された『弁道話』。この著作を中心に、道元禅師が示される正伝の仏法とは何か、なぜ坐禅修行を正門とされたのかについて解説する。また、『正法眼蔵』その他の著作から、坐禅に関わる教説を取り挙げ、只管打坐の意義や、道元禅師の仏法の核心についても触れたい。			
	配信期間	11月 29日 （ 月 ） ～ 12月 12日 （ 日 ）			
参考 文献	特になし				
受講に あたっての 留意点	特になし				